

# 文豪誕生の陰に恩師あり ～ノーベル文学賞作家川端康成～



国語選修 准教授 宮崎 尚子



川端の恩師倉崎仁一郎

作家は最初から文豪だったの？  
日本人で初めてノーベル文学賞を受賞した作家は川端康成です。小学校の頃から神童と言われ、文才を誇っていたのに、中学校に進学したら周りの同級生も優秀で、どんな成績が下がっていきます。卒業直前には、得意だった作文の成績はほぼ最下位の五十三点にまで下がります。  
同じ頃、恩師の葬式（生徒が棺を担ぐ生徒葬）を書いた文章が文芸雑誌に掲載されます。一中学生の文章が雑誌に抜擢され、葬儀の写真が巻頭に掲載された理由を探ると、文豪が誕生した経緯が見えてきます。

川端康成の知られざる中学時代の恩師について詳しく調べました。



資料①

## 川端康成の幻の文章を発見

資料① 「毎日新聞」2012年2月20日 第一面

『伊豆の踊子』には主人公が旅に出た理由を「二十歳の私は自分の性質が孤児根性で歪んでいると厳しい反省を重ね、その息苦しい憂鬱に堪え切れないで伊豆の旅に出てきているのだ。」としています。川端も、高校に進学した直後に、アットホームだった中学校の寄宿舎と違う一高の寄宿舎に耐えきれなくて旅に出ています。中学校の寄宿舎の舎監は倉崎先生で、生徒達から親のように慕われていました。

文部科学省科学研究費補助金を受けて行われています！



『伊豆の踊子』の旅の動機について調査しました。

川端康成文学の淵源としての「孤児根性」発生に関する研究—中学時代の調査を中心に—

(科学研究費補助金基盤研究C: 研究代表者 宮崎尚子)



川端康成

## 日本近代文学研究の今後の展望

日本近代文学は世界でも広く読まれ、教科書に掲載されている物も多くあります。日本文学を究めることで世界の人々とつながることもできます。

